

実践的なつながりへの昇華も図れた。

【ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心の醸成】

ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心が、地域内外で高まってきた。その背景には U-CoRo や大阪大学 C S C D などの協働、勉強会や見学会などを通じて得た実践者や研究者などとのつながりが元になっているところが大きい。これまでの協働やつながりから生まれたロジモク減災への理解や信頼が、クチコミなどでの活動の情報の伝搬につながっているようである。

空堀に立地する大阪府社会福祉協議会との関係づくりもはじまったが、ロジモク減災への協力だけでなく、相互メリットの追求や双方向のつながりづくりを企図することで、次のステップへの歩みも、遅くはあれども着実に踏み出すことが出来た。

◆ 課題

【地域住民一人ひとりへの浸透の不十分】

地元の連合振興町会などの、つながりの基盤は築けてきたが、地域住民一人ひとりへのロジモク減災の認知や防災・減災への関心の醸成など、浸透はまだまだ不十分である。

今後予定されている地元地域主催の防災訓練や避難所見学会などに、引き続き協力するなどしながら、今後も地道な浸透を図っていく必要がある。

【防災・減災への日常的な啓発手法の未獲得】

ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心は上がってきたものの、それらを一括したウェブサイトの上上げや、紙媒体やメールなどによる定期通信の発信、パンフレットの作成など、日常的な啓発手法が未獲得ままである。

勉強会や現地見学会の開催など、何か取り組んでいるとき以外の時間に、ロジモク減災の紹介や防災・減災の智恵の波及など、より多くの人たちに伝達する手法を得ていくことも今後重要である。

【からほり倶楽部の世代交代に併せた事業継承の不明瞭】

からほり倶楽部では今秋に理事の世代交代を予定している。世代交代では単なる理念や事業の継承は図らない方針であるため、今後のロジモク減災の事業継承は、からほり倶楽部内では不明瞭である。

これまで築いてきたネットワークや培ってきた知識・情報、そして地元地域とのつながりを、からほり倶楽部内外でどうつないでいけることができるか、来年度の大きな課題である。